



荒浜小の子どもたちに身に着けたい力のために 保護者・地域の皆様に御理解いただきたいこと

校長 笠原道宏

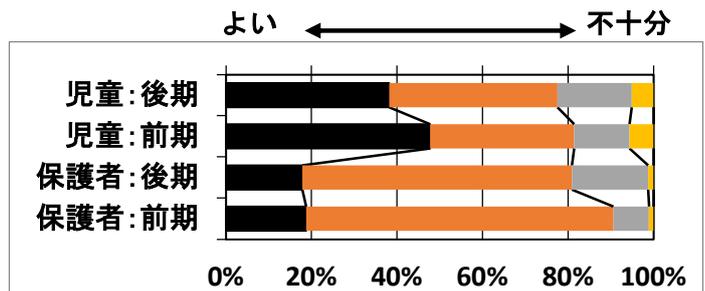
明けましておめでとうございます。

さて、1年前の10月に発行した学校だよりにも書かせていただいたのですが、荒浜小全児童の力としてもっと高めたいと思うのは…『子ども自身の自己肯定感』です。これは昨年から変わらない点になっています。

毎年4月に実施される全国学力調査で、国語や算数の学力と同時に調査される子どもの意識調査があります。「自分には良いところがある」との質問に対し、荒浜小の児童は県や全国と比較して「当てはまる」「どちらかという当てはまる」と答える割合が低いのが残念な部分です。今年に限ったことではなく、何年もその傾向が続いています。



学校では毎年、児童と保護者へアンケートを実施していますが、例えば右表に示されるように、児童評価より保護者評価の方が厳しい現状が多くの項目であります。



自分のがんばりや成長を見つけられている

どの学校でも大人の評価の方が辛い傾向があり、それ自体は共感できます。

厳しめの評価は、もう少しがんばってほしいとの期待の表れであったり更なる成長を願う気持ちであったり…そもそも、子どもの自分自身への基準が甘かったりすることが原因かもしれません。

しかし、子どもたちががんばったと感じていることに、多くの大人が「まだまだだよ」と接するより、たとえ不十分な面が多少あったとしても「そうか…よかったね。がんばったね。」と共感できる社会の中で、子どもたちには成長してほしいと考えています。もちろん、そこには学校教育も大きな責任を担っています。幅跳びで記録が1cm伸びた。漢字テストで前回より1点だけよかった。こうした小さなことを「大して変わらない」ではなく「昨日より向上した成長」ととらえ、がんばりを認める場所でありたいと思っています。

十分に分かっているし、子どもたちを評価しているというご家庭も多くあるかと思いますが、子どもたちに温かい言葉がけをお願いできたらと考えています。学校では今までに引き続き、重点的に大事にしていきたい部分ですので、御理解・御協力をいただければと思っております。子どもたちの幸せな未来のために今後も継続してがんばります。本年もよろしくお願いたします。